



## 取扱説明書および保証書

バイクボートを組み立て、使用する前に、必ず説明書をよくお読みください。



*Last edition: March 2021*

### 注意事項:

バイクボートを組み立ての際には、組み立てのビデオをご覧ください。



*Bikeboat UP*



# Bikeboat UP

## 1- バイクボートレックについて

1. - 一般情報
2. - バイクボート・レックの各種サイズ

## 2- 部品・付属品の名称

## 3- 初回組み立て

1. - 推進装置の初回注油
2. - 推進装置の取り付け
3. - ケーブルの取り付け
4. - Tフレームの取り付け
5. - プロペラの取り付け
6. - 推進装置の関節部の検証
7. - ハンドルバーとステアリングチューブの取り付け
8. - 動圧フェアリングの位置合わせ

## 4- 現地組立てから使用まで

## 5- 分解と保管

## 6- クリーニングとお手入れ

## 7- 定期メンテナンス

## 8- 重要事項

## 9- 保証規定



## 1- バイクボートレックについて

### 1.1 - 一般情報:

バイクボート(モデル・レック)は、軽量で使いやすく(技術を必要としない)、操作性に優れ、環境に優しい高性能水上バイクです。コンパクトで効率的なドライブユニット(推進システム)を採用し、高速走行やバック走行が可能です。フェアリング(流体力学的表面)を装備し、従来のモデルより30%速度が向上しています。



#### 特徴：

- 双胴船型
- アルミニウム構造
- アルマイト仕上げ(黒)
- 人間工学的なシート
- 交換可能な船体(フロート)
- スピード:最大8ノット(15km/h)

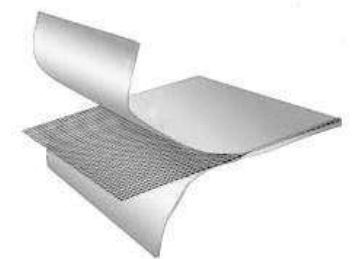
フロートの色：  
黄、赤

フロートサイズ：  
• 標準サイズ  
• ビッグサイズ  
• ダブルサイズ

バイクボートレックはプロペラを使用し、ラダーとフィンを備えており、いずれも格納式で流体力学的に優れています。また、シート(シートからペダルまでの距離)を調節することができます。双胴船型のため安定性が高く、海やラグーン、川で使用できます。

バイクボートレックは、6分以内に組み立てが可能です。組み立て・解体は簡単です。コンパクトな形状で車のトランクに収まります。小さな部品やフロートは、リュックサックに入れて簡単に持ち運べます。

フロートには、過酷な環境に耐える強化PVC生地を使用しています。外側のPVC層は耐摩耗性、内側の高ポリエステル生地は寸法安定性、引張強度、引裂強度を提供します。



強化PVC生地(外層および内層)





## 1-バイクボートアップについて

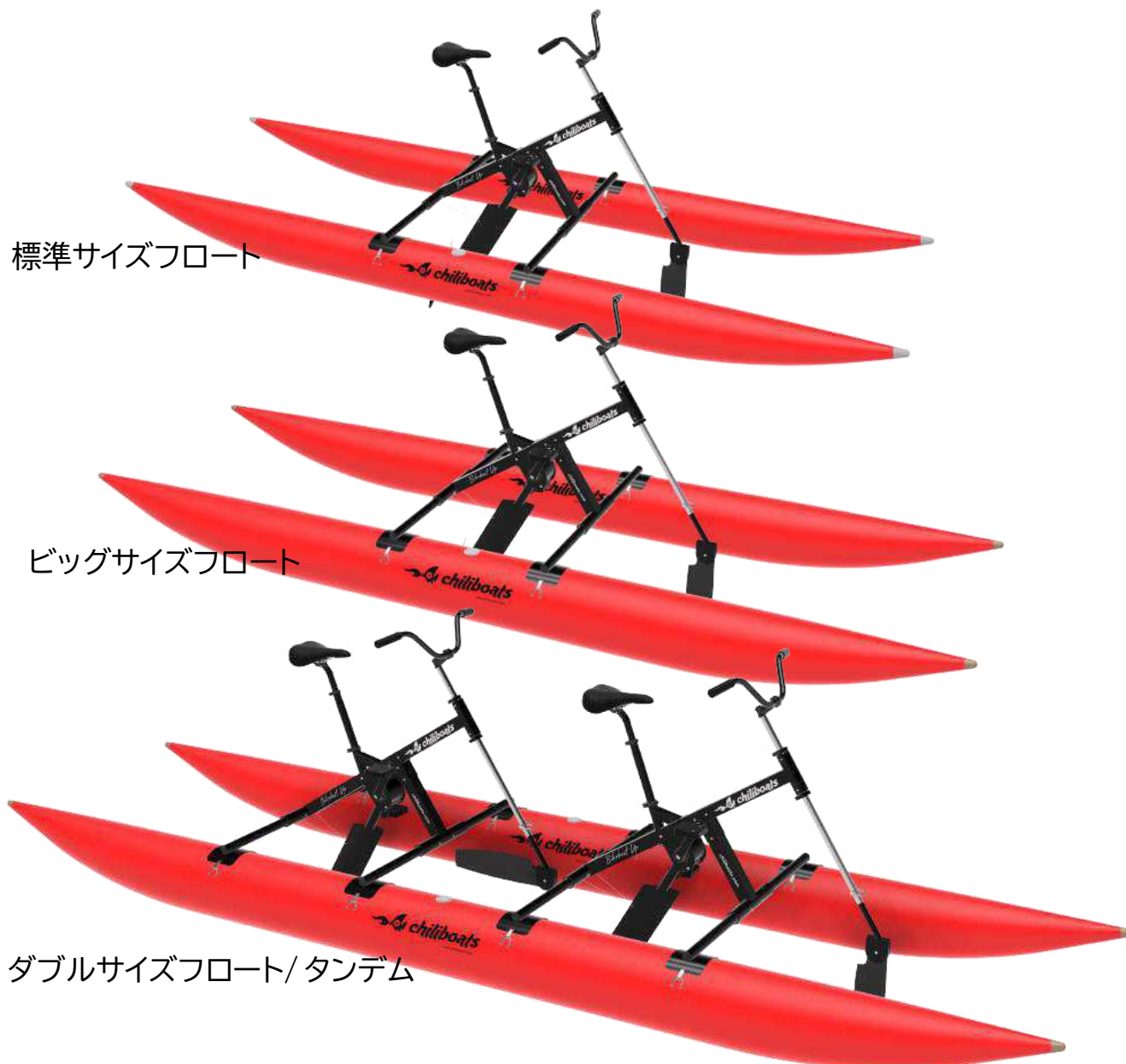
### High Performance Waterbikes

バイクボートは、数年かけて培ったノウハウの結晶です。最初のコンパクトボートは、アルミニウムの世界的リーダーであるALCOA社の「Innovation Project of the Decade(10年の革新プロジェクト)」に選ばれました。このプロジェクトはその後完成度を高め、現在では性能、機能性、品質、デザインの面で最高の製品を生み出しています。

12年の歳月をかけて改良を重ね、  
細部に至るまで完璧なバイクボートを完成させました。

## 1.2 - バイクボートアップの各種サイズ

下記3機種は、フレーム部分の寸法が同じです。異なるのは、船体(フロート)の直径と長さのみです。



標準サイズフロート

ビッグサイズフロート

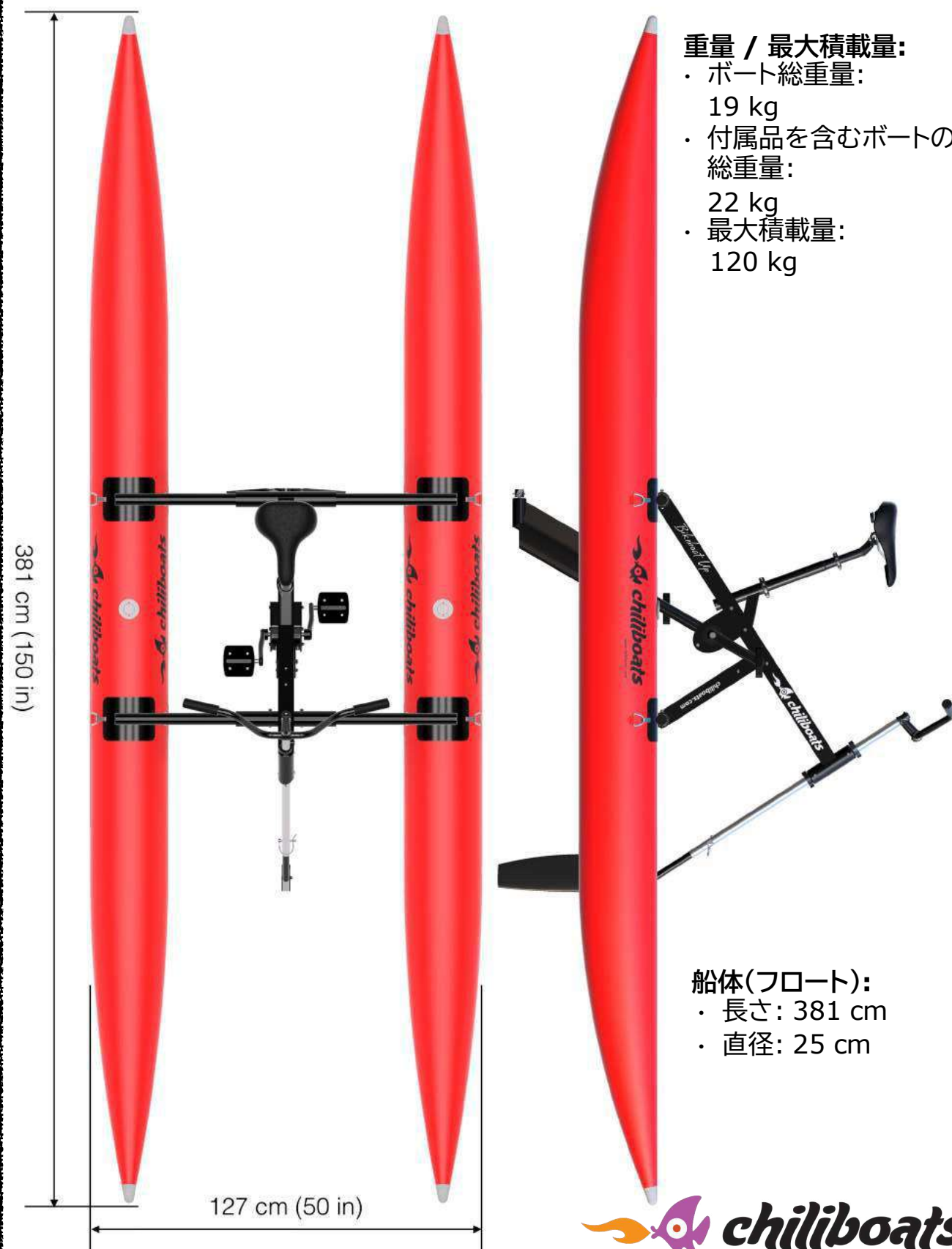
ダブルサイズフロート/ タンデム

## 1-バイクボートアップについて



## 1.2 - バイクボートアップの各種サイズ(続き)

### a) バイクボートアップ 標準サイズのフロート



#### 重量 / 最大積載量:

- ・ ボート総重量:  
19 kg
- ・ 付属品を含むボートの  
総重量:  
22 kg
- ・ 最大積載量:  
120 kg

#### 船体(フロート):

- ・ 長さ: 381 cm
- ・ 直径: 25 cm



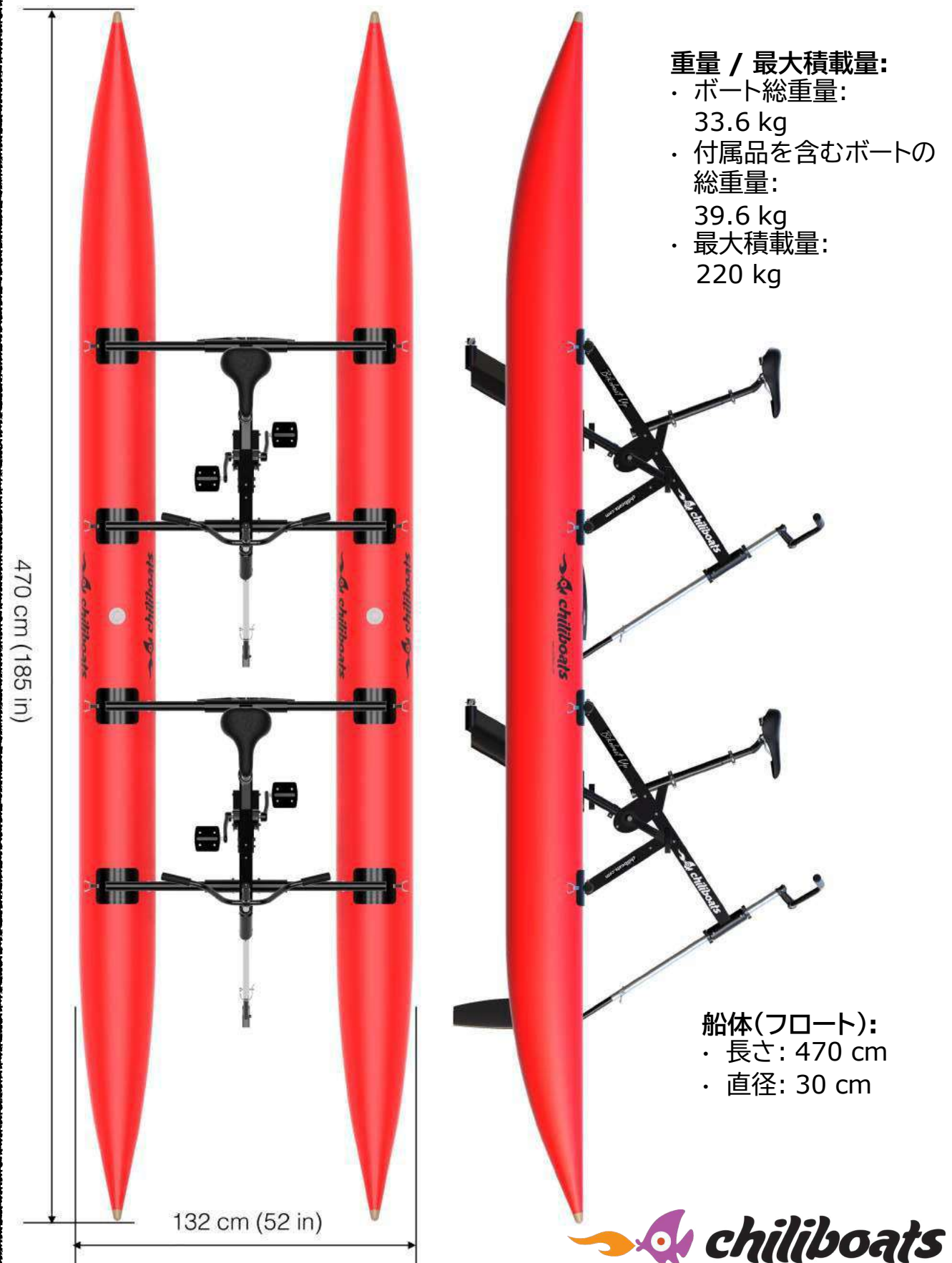
# 1- バイクボートアップについて

## b) バイクボートアップ ビックサイズのフロート



# 1- バイクボートアップについて

## c) バイクボートアップ ダブルサイズのフロート/タンデム





## 2- 各パーツの名称と付属品

各パーツの名称：



## 2- 各パーツの名称と付属品

付属品：

バイクボート・アップには、以下の付属品があります。

### バッグ

- 軽量で実用的なナイロン製バックパック
- 180度の開口部により、ボートの部品を容易に取り出すことができます。
- パッド入りのショルダーストラップ
- 前面に小物入れ付き
- 寸法 80 x 46



### ダブルアクションハンドポンプ

- 両方向のポンプ(カーソルの下降と上昇の時)
- 接続を変えるだけで、素早く膨張・収縮が可能
- バルブアダプター付き



バルブアダプター



### 補修用キット

- PVC布 (小さな傷用)
- 接着剤
- バルブを取り外すための道具(必要な場合のみ)





### 3- 初回組み立て

はじめに:

**警告** : バイクポートを組み立て、使用する前に、この説明書をすべて注意深くお読みください。特に赤で強調表示されている部分が非常に重要です。誤った組み立てや部品の紛失は保証の対象外となります。

まず、組み立てに十分なスペースのあるきれいな場所を選びます。理想は大きなテーブルの上ですが、ない場合は地面に置いて作業することも可能です。桟橋や高い草の上など、工具やナット、ボルトを紛失する可能性の高い場所は避けてください。

箱を開けて、中のものをすべて取り出してください。部品は丁寧に開梱してください。

事前にご準備いただく工具 :

- 10mm レンチ 2本
- 7mm レンチ 1本
- 3mm 六角レンチ 1本
- 4mm 六角レンチ 1本
- 5mm 六角レンチ 1本
- 6mm 六角レンチ 1本
- 8mm 六角レンチ 1本



#### 3.1 - 推進装置の初回注油 :

**警告** : 推進装置はオイルなしで出荷されます。組み立ての前に、以下の説明に従って最初の注油を行うことが不可欠です。

潤滑油にはギアオイルSAE90を使用してください。推進装置はオーリングとシールで完全に密閉されていますが、万が一漏れた場合でも環境に害を与えないようにするため、生分解性オイルをお勧めします。

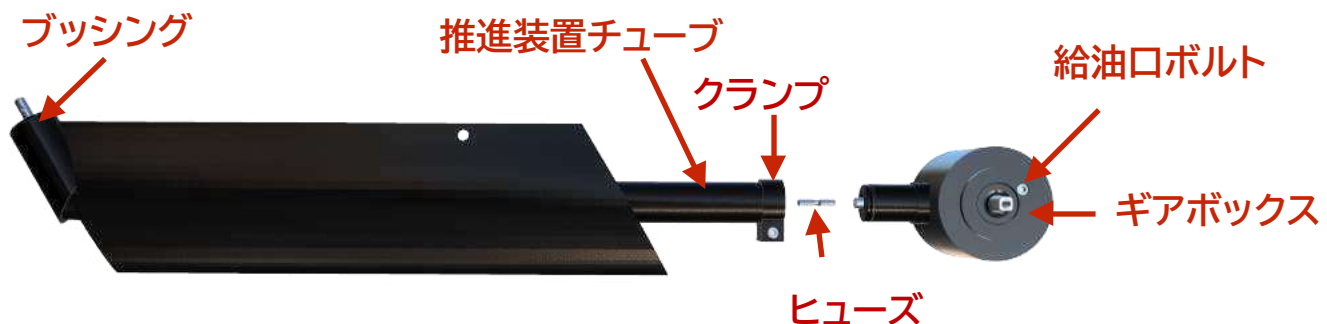
**警告** : 推進装置は、ギアボックス内と推進装置チューブ内に潤滑油を注入する必要があります。



### 3- 初回組み立て

#### 3.1 - 推進装置の初回注油 (続き) :

5mmの六角レンチを使って、推進装置チューブをギアボックスに固定しているクランプボルトを緩め、チューブを慎重に取り外します。コネクションエレメント(機械的ヒューズ)の役割を果たす小さな六角形の部品で、過負荷の場合にシステムを遮断して保護する)があることに注意してください。この部品を紛失しないように注意してください。



オイルは (a)ギアボックス内、(b)推進装置チューブ内の2箇所に注入します。



(a) ギアボックス内のオイル注入: 5mmの六角レンチを使って、ギアボックスの右側にある給油口ボルトを外し、シリンジで80mlのオイルを穴から注入します。

注入が終わりましたら、先に取り外した給油口ボルトを必ず取り付けてください。

(b) 推進装置チューブ内のオイル注入: チューブ内に80mlのオイルを注入します。このオイルはチューブの底まで流れ、プロペラの横、エルボー部にあるブッシング部を潤滑します。

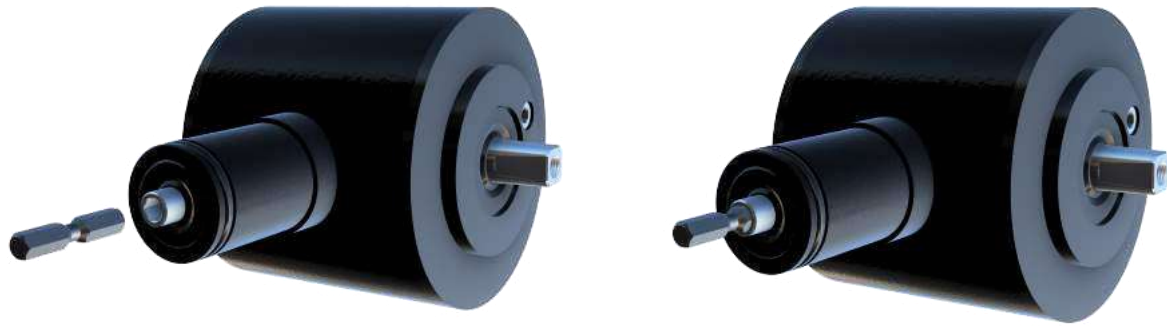
**重要** : 上記の作業をするときは、給油口ボルトが常に右側を向くように、ギアボックスを接続してください。





## 3-初回組み立て

オイル注入後、ヒューズが正しい位置にあることを確認しながらチューブをギアボックスに再接続し、クランプを締め付けます。ヒント:小さなヒューズを所定の位置に保つには、ヒューズの片方の端にグリースを少し塗って、この端を写真のように穴に差し込みます。こうすることで、組み立ての間、ヒューズを正しい位置に保つことができます。



**重要:組み立ての失敗やマニュアルの手順を守らないことによるトラブルが多発しています。**

組み立ての失敗例	想定される影響
推進装置に注油せずに組み立てる。(ギヤボックス、推進装置チューブ)	内部部品が摩耗し、機械的な故障につながる可能性があります。
給油口ボルトが左向きになるように、ギアボックスを接続する。	前向きにペダルを漕ぐとバイクボートは後進します。
クランクをメインフレームの左右逆側に取り付ける。	ネジが緩くなりペダルが外れます。
自転車屋さんで売られているクランクプラーツールを使ってクランクを外そうとする。	ギアボックスを破損させる可能性があります。
組み立ての際、クランクボルトを正しく締め付けない	ネジが緩み、クランクの損失につながる可能性があります。

**手順どおりに、作業を進めてください。**

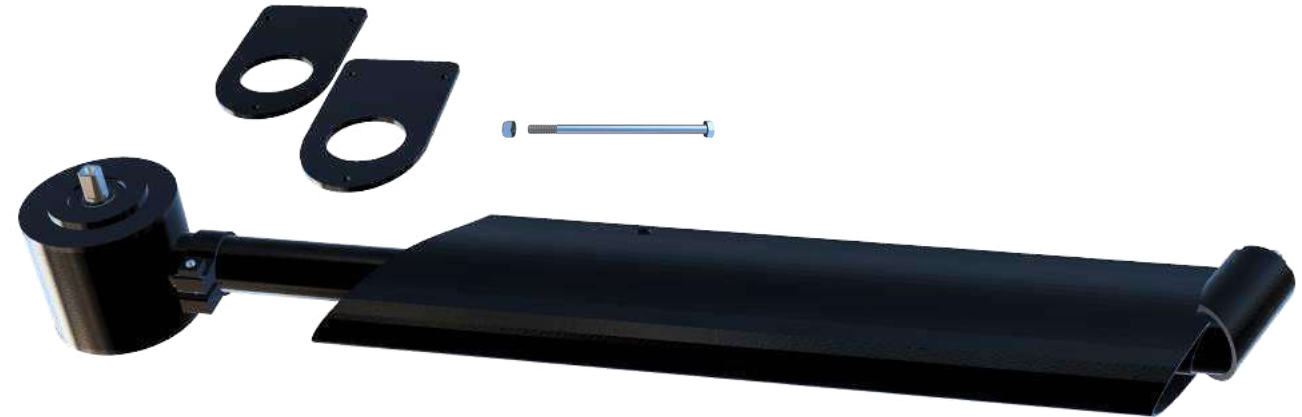
バイクボートレックのモデルは、フロートが標準サイズ、ビッグサイズ、ダブルサイズのいずれであっても、組み立て手順は同じです。唯一の違いは、3.4節で説明するケーブルの取り付け方です。

## 3-初回組み立て

### 3.2 -推進装置の取り付け

#### a) 据付プレートの取り付け

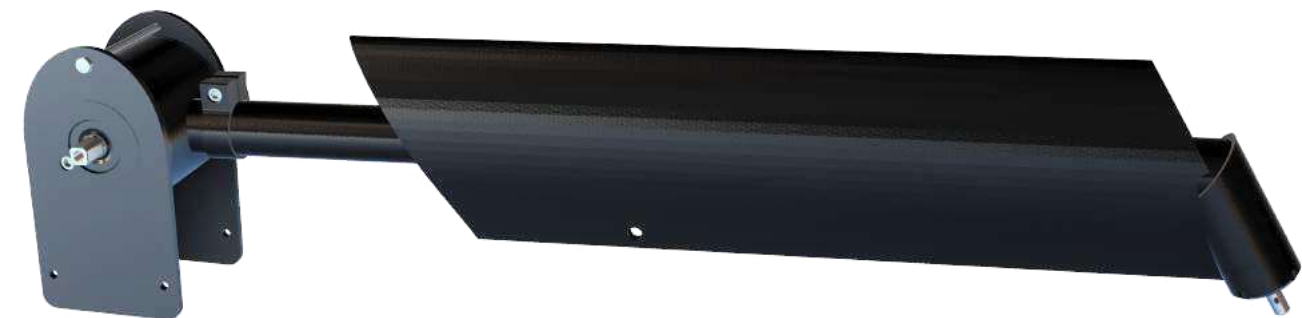
下の写真のとおり、推進装置、2枚の据付プレート、長いボルト1本とそのナットを用意してください。



下の画像のように、2枚の据付プレートをそれぞれの場所に挿入します。



プレートの穴にボルトを差し込み、もう一方の端にナットをはめ、工具(10mmスパナ2本)を使って締め付けます。



### 3- 初回組み立て

#### 3.2 - 推進装置の取り付け (続き):

##### b) メインフレームへの推進装置の取り付け

図のように、長いボルトとナットを2本用意します。

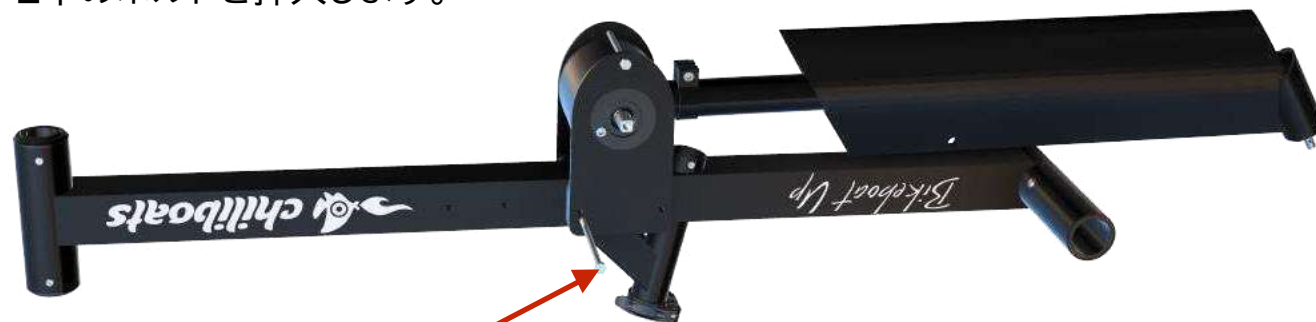


取り付けを容易にするため、下の写真のようにメインフレームを上下逆さまにしてください。

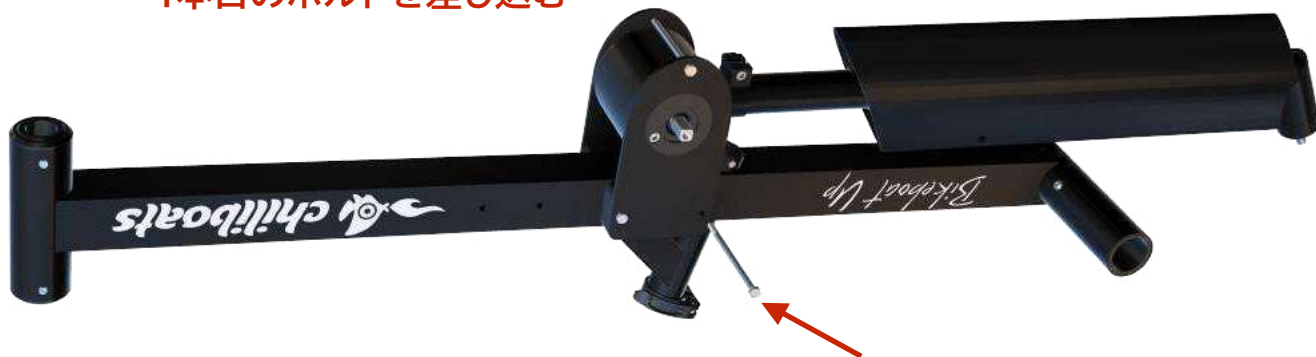
ヒント: この作業は、もう一人手伝ってもらえるとやり易くなります。



推進装置をフレームの穴の位置に合わせます。写真のとおり、2本のボルトを挿入します。



1本目のボルトを差し込む



2本目のボルトを差し込む

### 3- 初回組み立て

2本のボルトを差し込んだら、もう一方の端にナットを置き、工具(10mmレンチ2本)を使って締め付けます。



ナット



ナット2か所  
しっかり  
締め付ける



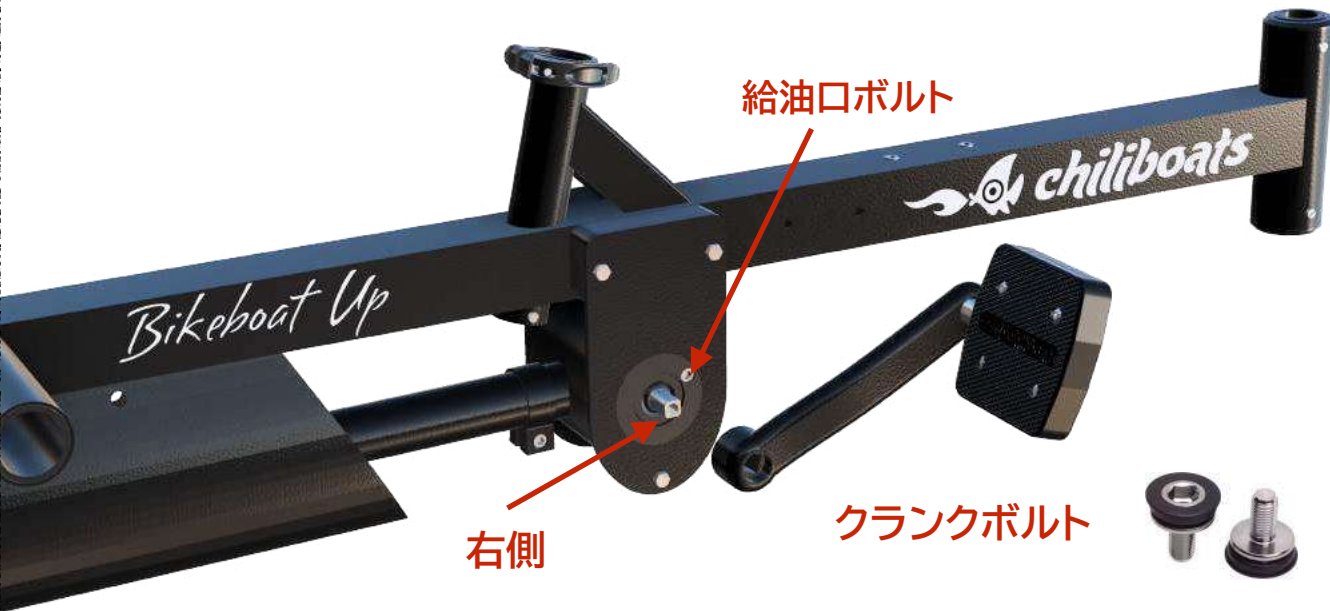
### 3- 初回組み立て

#### 3.2 - 推進装置の取り付け（続き）：

##### c) クランクの取り付け

**超重要:** クランクを取り付ける前に、給油口ボルトが下図のように右側に向いていることを確認してください。そうでない場合は、プロペラが反対方向に回転してしまいますので、修正してください。

下図のように、クランクのペア、クランクボルト2本、8mm六角レンチを用意します。



**警告:** クランクは必ず左右間違えずにつけてください。

ペダルの紛失を防ぐため、両方のクランクを正しい側に取り付ける必要があります。クランクを逆さに取り付けると、両方のペダルのネジが外れやすくなり、落下の恐れがあります。

R(右)は右クランクです。

### 3- 初回組み立て

下図のようにクランクボルトを挿入し、8mm六角レンチで締め付けます。左側も同様に行います。



**警告:** クランクボルトはしっかりと締め付けてください。正しく締め付けないと、使用中にボルトが緩み、クランクを紛失するおそれがあります。

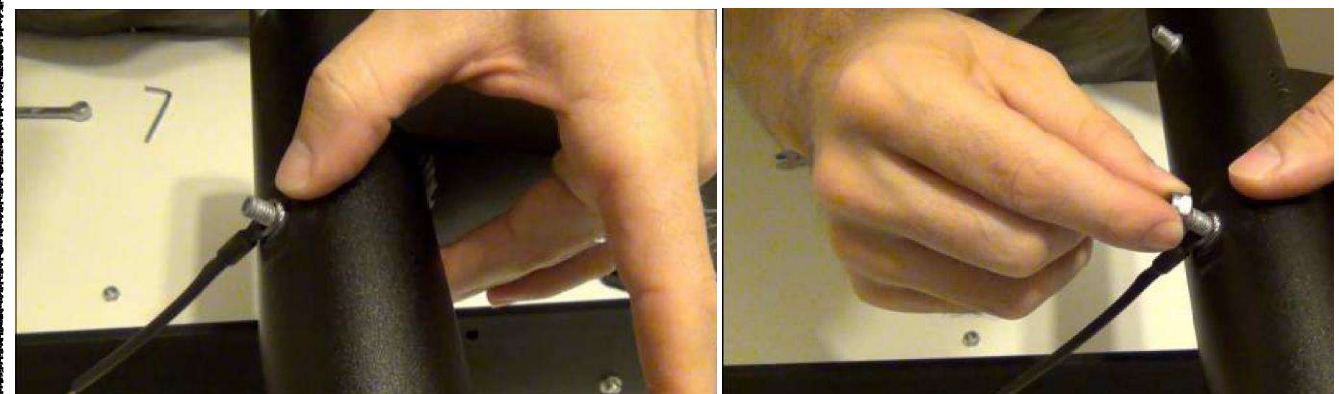
#### 3.3 - ケーブルの取り付け：

##### a) 標準サイズのフロートに使用する場合

下図のようにナットを外します。



下図のように、ボルトをケーブルの端に通し、ナットを取り付けます。







### 3- 初回組み立て

#### 3.3 -ケーブルの取り付け(続き):

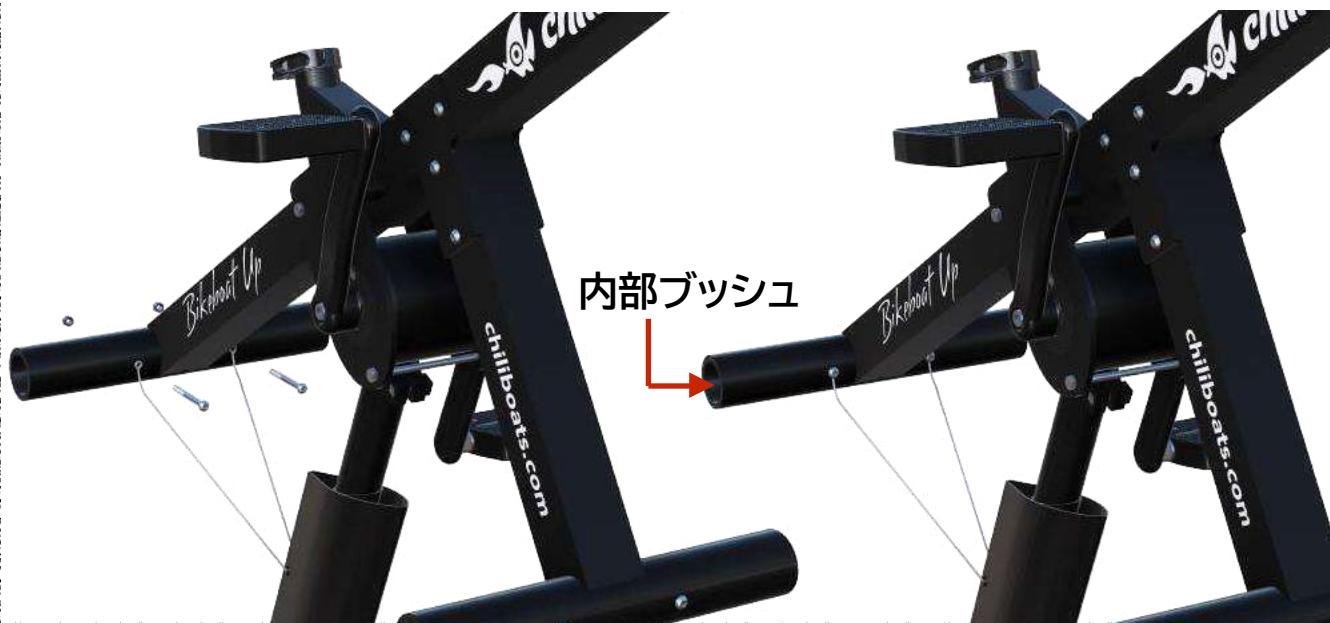
##### a) 標準サイズのプロートに使用する場合

下の写真のように、ケーブルのもう一方の端をフェアリングの穴に通した後、ボルトの端に取り付け、ナットを取り付けます。



##### b) ビッグサイズ、ダブルサイズのプロートに使用する場合

下の写真のように、T型フレーム内部のブッシュが動かないようにしながら、慎重にナットとボルトを外します。ケーブル、ボルト、ナットの順に取り付けます。



### 3- 初回組み立て

#### 3.4 - T型フレームの取り付け :



残りの2つのボルトとナット用意します。  
T型フレームをメインフレームにセットします。

左の図のように2本のボルトを緩めて(ただし、挿入したまま)、作業しやすくします。T型フレームをメインフレームに装着します。



注意:Tフレームを逆さに取り付けないようにしてください。

写真のようにchiliboats.comの文字が見えていれば正しい向きです。



コネクタバー挿入側のボルトの角度が破線と同じになっていれば正しい向きです(左の写真)。Tフレームを逆さに組み立てると、コネクタバーが正しくはまりません。

穴の位置を合わせてから、2本のボルトを差し込みます。ナットを挿入し、4本のボルトをすべて締め付けます。

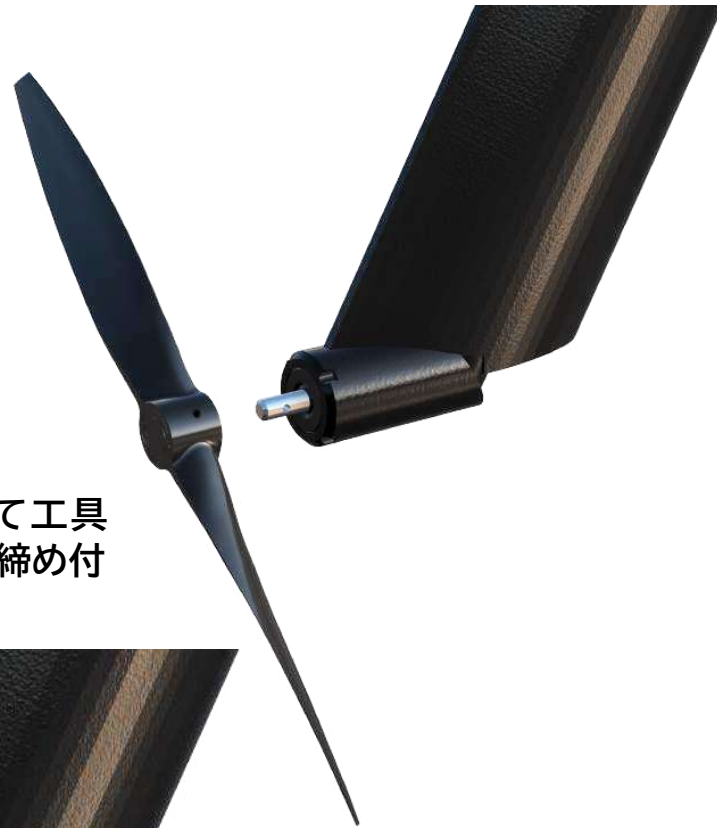




## 3- 初回組み立て

### 3.5 - プロペラの取り付け:

プロペラの穴とプロペラシャフトの穴が合うように挿入してください。



ボルトを挿入し、ナットを取り付けて工具(3mm六角レンチと7mmレンチ)で締め付けます。



## 3- 初回組み立て

### 3.6 - 推進装置の関節部の検証

**警告:**この作業は重要で、推進装置の関節の動き(赤い線)をチェックし、必要であれば、この動きを制御するボルト(調整用ボルト)で調整します。



バイクボートを前後に進めるたびに、推進装置が上下に動く場合は調整用ボルトで適度に締め付ける必要があります。

#### CHECK:

推進装置の関節部の回転が非常にかたい場合は、ボルトを緩めてください。推進装置の関節部が非常に回転しやすい場合は、ボルトを適度に締めつけてください。

推進装置はあまり力を入れずに手で上下させることができます。推進装置は、航行時に伸ばした状態であることが必要です。

使用中に衝撃を受けると、故障の原因になります。保証対象外となります。



## 3- 初回組み立て

### 3.7 - ハンドルバーとステアリングチューブの取り付け:



ハンドルバーが、ステアリングチューブ下部の穴の向き(写真実線)と平行になるように、ハンドルバーをステアリングチューブに挿入します。向きを合わせたら締め付けます。

### 3.8 - 動圧フェアリングの位置合わせ:

動圧フェアリングがメインフレームと完全に位置が合っていることを確認します。合っていない場合は、ビデオ“Alignment of hydrodynamic fairing”をご覧になり調整してください。この作業は、バイクボートが左右に曲がることなく、まっすぐな軌道を保つために重要です。



調整前



調整後

## 4- 現地での組み立てから使用まで

### 組み立て方:

4.1 フロートを1m程度の間隔を空けて、地面に平行に並べて伸ばします。ハンドポンプのホースを各フロートのバルブに接続し、フロートに空気を入れますが、完全に膨らませないでください。



**注意:**ホースを取り外す際、空気が漏れていることに気づいたら、バルブピンが少し外に出るまで回してください(バルブは通気口を閉じます)。

4.2 下の写真のように、4本のコネクタバーをメインフレームに取り付けます。取り付けは、コネクタバーを金具に当たるまで差し込み、回転させるだけです。コネクタバーのプレートの凸部がバーの下にあるようにします。







#### 4- 現地での組立てから使用まで

4.3 バイクボートアップのメインフレームを、軽く空気を入れた2つのフロートの上に置きます。コネクタバーの支持板がフロートのリングの近くになるように合わせます。



4.4 下の写真のように、各コネクタバーのフックをリングにはめ込みます。



フックがはめにくい場合、フロートのバルブピンを押しながら、空気を少し抜きます。

4.5 すべてのフックを取り付けたら、各フロートのバルブにハンドポンプのホースを差し込み、フックがリングに食い込んでいることを確認しながら、十分に膨らませます。

**警告:** 空気が入りましたら、必ずバルブキャップを取り付けてください。



#### 4- 現地での組立てから使用まで

4.6 シートチューブを挿入する前に、クランプがメインフレームに付いていることを確認します。クランプレバーを開き(下の写真)、シートチューブを少し回しながら最後まで挿入してください。

**警告:** シートチューブの端には、ストップ(フレーム下部のボルト)にはまる切れ込み部分が2か所あります。この金具は、アライメントを確保するためのものです。



クランプを締めます。







## 4- 現地での組立てから使用まで

4.7 使う方の身長に合わせて、シートの高さを調節します。

**警告:**シートの高さ調整は、シートポストのクランプのみを使用してください。

メインフレームのクランプは絶対に使用しないでください。

シートチューブが完全に挿入されていないと、フレームに修復不可能な損傷を与える可能性があります。

保証対象外となります。



シートポストのクランプ

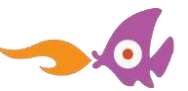
4.8 下の画像のように、「コイルリーシュ」付きのクランプを外し、ハンドルバーのセット(ハンドルバーとステアリングチューブ)をフレームに差し込みます:



「コイルリーシュ」を下にしてクランプを挿入します。

コイルリーシュ

## 4- 現地での組立てから使用まで



4.8 ラダーチューブをステアリングチューブに挿入します。



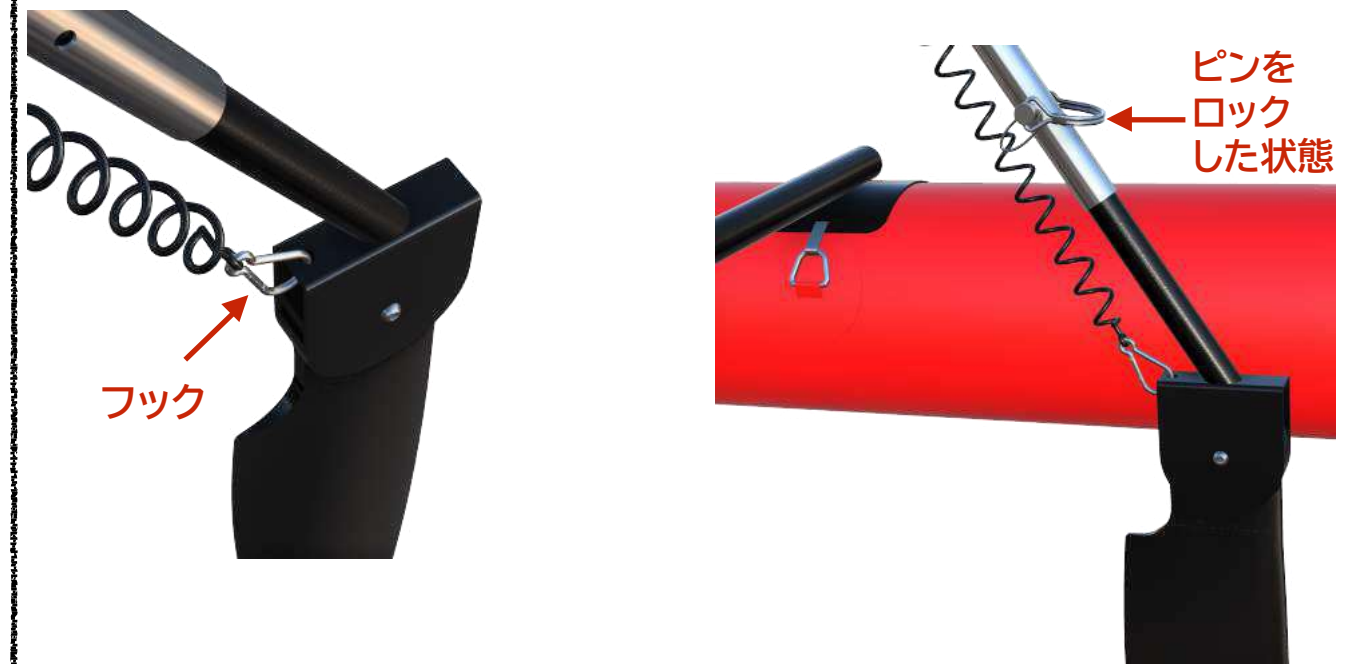
ラダーチューブ

正しい  
取り付け方

間違えた  
取り付け方

a) 下の画像のように、フックをラダーホールに差し込みます。

b) 下の画像のとおり、穴が合っていることを確認し、ピンを挿入してロックします。



フック

ピンを  
ロック  
した状態

**警告:**フックはラダーホールに必ず差し込んでください。フックを固定しておけば、万が一ラダーチューブが水に落ちても、コイルリーシュで吊るされているので、見失いません。





## 4- 現地での組立てから使用まで

### 4.10 バイクボート・アップの準備は完了です!

この写真では、ラダー、推進装置が格納されています。



ラダー  
ボルト

**警告:** ラダーボルト(上図)を締め、ラダーが水面に対して垂直な位置を保ち、その効果を最大限に発揮するようにします。

バイクボート・アップを水中に置き、水深約70cm以上の場所に移動し、ラダーと推進装置を伸ばして使用する位置にします。これでペダルを漕ぐことができます。



推進装置の位置  
使用時

ラダーの位置  
使用時

水深70cm以下の場所では、プロペラが底に衝突して破損するのを防ぐため、ペダルを踏まないでください。Good adventures! ;)



## 5- 分解と保管

分解する場合は、以下の手順で行ってください:

1. ラダー、フィンと推進装置を格納位置に戻し、バイクボートを地面につけます。
2. ラダーからフックを外し、ロックピンを外し、ラダーチューブを外します。
3. コイルリーシュの付いたクランプを外し、ハンドルバー一式を取り外します。
4. バイクボートレックのシートを取り外します。
5. バルブのトリガーを押し、空気を抜きます。バルブピンを指で押して少し回すとバルブが開いたままになります。ピンがわずかに内側に位置するところが開位置です。
6. フロートのリングからフックを外します。コネクタバーを持ちメインフレームを引き上げます。
7. 4本のコネクタバーを外します。
8. フロートを図のように包みます(折り目がつかないようにすることで、フロートの寿命を延ばします)。



9. バックパックへの収納を容易にするために、まずジッパーを完全に引き、180度開きます。折り畳んであるフロートをバックパックに入れます。シート、ハンドルバー、ラダー、ハンドポンプもバックパックの中に入れ、ジッパーを完全に閉じます。4本のコネクタバーは、フロントポケットに入れることができます。





## 6- クリーニングとお手入れ

バイクボートアップとその付属品の耐久性を高めるために、以下の方法をお勧めします。

1. バイクボートを使用した後、特に海水で使用した場合は、毎回真水で洗い流してください(圧力洗浄機は使用しないでください)。

注意: フロートを洗うときは、フロート内部への水の浸入を防ぐため、バルブがカバーされていることを確認してください。ポイント: この洗浄は、ボートを組み立てた状態で行うと簡単です。

2. 砂の上で分解作業をすると、濡れた部品に付着してしまうので、できるだけ避けてください。床や芝生の上がお勧めです。

3. バイクボートとアクセサリを保管する前に、必ず乾燥させ、乾燥した風通しの良い場所に保管してください。フロートは、汚れを防ぐためによく乾かしてからバックパックに収納してください。

4. バイクボートを使用しないときは、なるべく日陰に置くようにしてください。

5. バイクボートを常に組み立てておく場合、フロートの耐久性を高めるために、ボートを使用しないときはフロートの圧力を抜いてください(バルブピンを押すだけ)。

## 7- 定期メンテナンス

1. 20時間使用するごとに、緩んでいるボルトをすべて点検し、締め付けることが非常に重要です。(ただし、推進装置の関節部を制御するボルトは、毎回使用前にチェックする必要があります - 項目3.6を参照してください)。ボルトが緩んだ状態でバイクボートを使用すると、そのボルトで接合されている部品が擦れ始め、表面や部品、穴が摩耗・傷つき、機器の早期劣化につながり、後者の場合は取り付けに不具合が生じます。

警告: プロペラシャフト付近の推進装置チューブの端にねじ込まれているブッシングは、絶対に分解しないでください。一見簡単そうに見えますが、この分解は些細なことではなく、このサービスを行うための特別な訓練を受けた担当者(chiliboats社によって認可された者)だけが行うことができます。

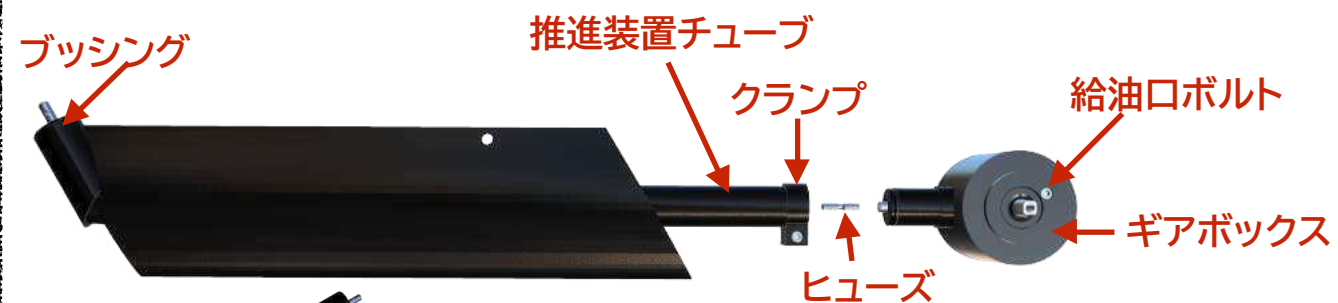


## 7- 定期メンテナンス

2. 推進方式は、ピニオンとギヤの伝動方式を採用。また、ダブルユニバーサルジョイントを採用しています。これらの要素の摩耗を防ぎ、スムーズで静かな運転を実現するために、良好な潤滑が必要です。

警告: 最初の潤滑は、3.1項のとおり、最初に使用する前に行う必要があります。その後、ギアボックスのオイルと推進装置チューブのオイルを1年ごと、または毎日使用する場合は6ヶ月ごとに交換する必要があります。以下の作業を行うときは、ペダル/クランクを取り外さないでください。画像は見やすくするために、それらを除いたものです。

ステップ1: 5mmの六角レンチを使って、推進系チューブをギアボックスに固定しているクランプボルトを緩め、下の画像のように、メカニカルヒューズを失わないように注意しながらチューブを外します。



ステップ2: 左図のように、5mmの六角レンチでギアボックスから給油口ボルトを取り外し、オイルをカップに排出して適切に処理します。同様に、推進装置のチューブを開口部が下向きになるように置き、オイルを排出させます。SAE90オイルは粘度が高いため、一晩かけて排出させるのが理想的です。

ステップ3: SAE90ギアオイルを2箇所(a)ギアボックス内、(b)推進装置チューブ内に注入します。



(a) ギアボックス内のオイルの塗布: 注射器を使い、80mlのオイルを穴から注入します。注入後、先に取り外した給油口ボルトを必ず取り付けてください。

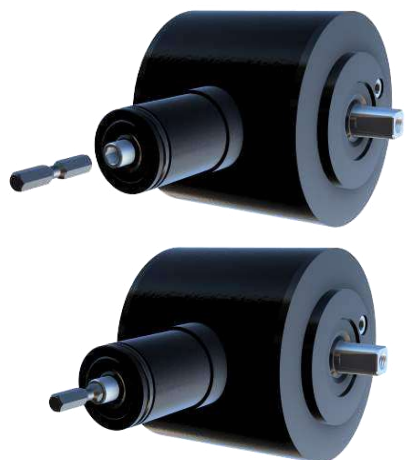




## 7-定期メンテナンス

(b) 推進系チューブ内のオイル塗布:チューブ内に80mlのオイルを注入する。このオイルはチューブの底まで流れ、プロペラの隣のエルボ部分にあるユニバーサルジョイントを潤滑する。注入後、チューブをギアボックスに再接続し、ヒューズが正しい位置にあることを確認し、クランプを締め付けます。

**重要:** (a)、(b)の注油作業を行う際は、必ず給油口ボルトが右側になるようにギアボックスを接続し、3.8項の動圧フェアリングの位置合わせを行い、クランクの向き(L左、R右)を間違えないように注意してください。



ステップ4:装着後、チューブをギアボックスに再接続し、ヒューズが正しい位置にあることを確認し、クランプを締め付ける。ヒント:小さなヒューズを所定の位置に保つには、ヒューズの片方の端にグリースを少し塗り、この端を写真のように穴に差し込んでください。こうすることで、組み立ての間、ヒューズを正しい位置に保つことができます。

**3. 警告:** バイクボートには、予備のヒューズが2個付属しています。ヒューズを交換する時のために、保管してください。

推進システムには、過負荷の場合にシステムを保護する機械的ヒューズがあり、中央部分で剪断されます。これが発生すると、ペダルを回してもプロペラが回転しないことに気がつきます。この場合、剪断されたメカニカルヒューズを新しいものと交換するだけです。交換するには、5mmの六角レンチを使い、推進装置のチューブをギアボックスに固定しているクランプボルトを緩め、チューブを慎重に取り外します。ヒューズを交換し、チューブをギアボックスに再接続し、ヒューズが正しい位置にあることを確認し、クランプを締め付けます。



## 8- 重要事項



下記の注意事項をお読みください。

1. バイクボートのフレームを輸送するとき、推進装置に負荷、特に横方向の力が加からないようにしてください。例:輸送中にフレームをラックに固定するための係留を行う場合、推進装置を介して取り付けず、フレームの他の固定部分を使用し、推進装置に荷物や重りを載せないでください。
2. フレームを運ぶとき、あるいは完全に組み立てられたボートを運ぶとき、決して推進装置を持たず、メインフレームの他の固定部品やコネクタバーを持ってください。
3. 輸送中に推進装置に衝撃を与えないようにしてください。
4. フロートを膨らませるために、同梱のハンドポンプを使用することをお勧めします(最大圧力5~7psi程度)。高圧ポンプ(通常インフレーターボードに使用される)は絶対に使用しないでください。
5. ボートが70cm(膝上水位)以下の地面や水深にある場合は、必ず推進装置を引き上げ、底面との衝撃を避けてください。
6. 水深70cm(膝上水位)以上で乗船し、同深度で下船することをお勧めします。
7. 一人で海に出ないで下さい。
8. 自分の能力を過大評価せず、自然の力を過小評価しない。
9. サーフエリアではバイクボートを使用しないでください。バイクボートはサーフィン用に設計されたものではありません。
10. 鋭利なものがある場合は注意が必要です。
11. 本製品を使用する前にアルコール飲料を飲んだり、薬物を使用したりしないでください。
12. バイクボートは救命具ではありません。泳げる方でも必ずライフジャケットを使用してください。
13. 推進装置は頑丈で信頼性が高いですが、装置を過信せずに安全な漕艇をお勧めします。
14. 水環境について、すべての基準と地域の使用を遵守してください。



## 9- 保証期間

Chiliboatsの商品はすべて徹底した品質検査を受けており、お客様に完璧な状態で商品をお届けすることをお約束します。

当社の保証は、製造上の欠陥にのみ適用されます：

個人使用の場合：

構造部品、推進装置：

製造上の欠陥に対する9ヶ月の保証(購入日から起算)。

フロート、付属品：

購入日から数えて3ヶ月間の製造上の欠陥に対する保証。



商業利用(レンタル、ツアー、ホテル、公園など)の場合：

構造部品、推進装置：

製造上の欠陥に対する6ヶ月の保証(購入日から起算)。

船体、付属品：

購入日から数えて3ヶ月間の製造上の欠陥に対する保証。



**バイクボートの使用は、  
個人的または娯楽的な使用に限定されます。**

ご意見、ご感想、ご質問はこちらまでお寄せください。

[chiliboats@chiliboats.com](mailto:chiliboats@chiliboats.com)



## 9- 保証期間

下記の場合は保証の対象外となります：

- ・ 本書に記載されている以外の方法で組み立てた場合に発生した損害。
- ・ 放置、部品の紛失による損害。
- ・ 材料の摩耗や事故による損害。
- ・ 乱暴な取り扱いや誤用による損害。
- ・ 使用中または輸送中の、推進装置の衝撃によって引き起こされた損害。
- ・ サーフゾーンでの使用に起因する損害。
- ・ 浅瀬での使用に起因する損害。
- ・ バイクボートを波乗りを使用したことによって生じた損害。
- ・ 推奨される手入れや定期的なメンテナンスに従わないことによって生じた損害。
- ・ 不適切な輸送によって生じた損害。
- ・ Chiliboatsの事前の承認なしに行われたボートへの改造に起因する損害。

診断の迅速化のため、請求書および写真・動画を添付の上、下記宛にご連絡ください。

email: [garantia@chiliboats.com](mailto:garantia@chiliboats.com)

当社は、メールを受信した後、予備的な分析を行い、今後のご対応などをお客様にご案内致します。

適切に設定されていない点については、有効な消費者保護コードが適用されます。



[www.chiliboats.com](http://www.chiliboats.com)